

行政（公助）に対する総体的な提言案

4項目

内訳：渡邊副委員長 1項目、齋藤委員 3項目

通番	担当課	要覧該当ページ	事業番号	対象事業名	内容	掲載案	委員名
1	福祉政策課	—	—	—	地域の福祉事業に携わる方々の、これまでの長年の努力の結果、自分の力で支援を求めて手を挙げられる人や、入手可能な個人情報のデータから見つけ出すことができる人は、手厚い支援を受けられるようになりました。 しかし、自分の力で支援を求めて手を挙げられない人や、入手可能な個人情報のデータから見つけ出すことができない人は、手厚い支援から漏れてしまっていて、受けられる支援の格差が拡大しています。この「見えない無言の弱者」を、「積極的に見つけ出す」ための強力な取組みを期待します。	同左	齋藤委員
2 追加	福祉政策課	—	—	—	<重層的支援体制整備事業について> 相談支援、参加支援、地域づくり支援の3つの支援を通して地域の問題が浮き彫りになる場だと考えます。 特に、どの制度にも対象とならない困りごとを抱えた人にとって相談支援は大切かと思えます。 関わる人、職員が地域に出て目で見て感じて個人のレベルアップに繋げる業務、支援となることを期待します。	同左	渡邊副委員長
3 追加	福祉政策課	—	—	—	「見えない無言の弱者」を、「積極的に見つけ出す」ための一つの取組みの例として、私の地域にある船橋市社会福祉会館の改善を例題として提案します。現在の船橋市社会福祉会館には、東部保健センター、東簡易マザーズホーム、身体障害者福祉センター、東老人福祉センター、母子・父子福祉センター、地区社協、地域包括支援センター等の事務所が入っています。新京成線の習志野駅の目の前にあり、上記の事務所に用事のある方が大勢訪れますが、利用者の皆さんは、用事が済めば早々に帰っていきます。 屋外エントラントに少しだけベンチがありますが、室内のロビーには座る場所はなく暗く広く冷たく、誰も立ち止まらず、黙って通り過ぎていきます。 このエントラントとロビーに素敵なテーブルとイスを置き、今は使われていない総合管理室に簡単な厨房設備を入れ飲物と軽食を出せるようにして、「カフェテラス」を作ります。この「カフェテラス」は、ここで働く職員や事務所を利用する人々が休憩や食事をします。又、周辺の住民や駅の利用者も利用します。子供食堂やパンドリーピックアップ、老人カフェや障害者カフェ、認知症カフェなどの会場としても利用します。 この「カフェテラス」は、高齢者・障害者・母子父子家庭者・困窮者等の「居場所」であり、ここに事務所がある福祉組織の職員との「事務処理を越えた心の交流の場」です。 この「カフェテラス」での交流を通じて、「見えない無言の弱者」を「積極的に見つけ出す」ことも可能になると思います。（別図PDFデータも参照願います。）	同左	齋藤委員
4 追加	福祉政策課	—	—	—	<今後の公助の在り方についての提言> 「利用者の立場に立った、分かり易く迅速な支援」に向けて、「断らない相談支援（本人・世帯の属性に関わらず受け止める相談支援）」や「重層的支援体制整備事業の創設」が行われ、公助の大きな前進が見られています。 一方で、令和5年度の船橋市予算総額(223,900,000千円)に対する民生費は、103,707,800千円と高額で、全体の46%を占め、年々、増加傾向にあります。 又、年金、健康保険、介護保険等の社会福祉に対する市民の負担も増加しています。 社会福祉サービスを受ける人が増加し、福祉サービスの充実が進められる一方で、社会福祉サービスを受けなくて、その原資を賄っている若い世代の不満が高まっています。 このままでは、現在の若い世代の人々は、将来、現在のような福祉サービスを受けられなくなるかも知れません。 第4次地域福祉計画の中で「重層的支援体制整備事業の創設と確立」を図った後に、次の第5次地域福祉計画の中で、「公助の組織の改革と効率化」「地域ボランティア活動の活性化に向けた抜本的な改革と、社会福祉活動への効率的な活用」というような公助コスト削減の取組みも行うべきだと思います。	同左	齋藤委員